

第10回 高崎学検定

令和4年10月22日（土）



—— 問題と解説 ——

問 1

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

烏川は、高崎市倉渚地域の長野県境にある鼻曲山を源に、和田橋上流で碓氷川、【ア】で鐺川と合流し、群馬県玉村町・埼玉県上里町で利根川に合流します。

烏川に架かる和田橋近くに「利根川合流点より【イ】」と標識があります。

ア (1) 阿久津町 (2) 岩鼻町 (3) 新町 (4) 山名町

〔正解 1〕

イ (1) 8キロメートル (2) 18キロメートル
(3) 28キロメートル (4) 38キロメートル

〔正解 2〕

●解説

阿久津町で烏川と合流する鐺川は、妙義荒船佐久高原の分水嶺を源流とし、下仁田町から鐺川という名称となり、富岡製糸場の脇を下り、吉井町をとおり、その後、木部町から北上して烏川と合流します。下仁田町から阿久津町までの鐺川の距離は約53キロメートルです。

問 2

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

関越自動車道はJR上越線と交差する日高町付近で、約100メートルにわたって高架になっています。これは、1977（昭和52）年に、当時、関東以北では初めての【ア】時代の水田跡が発見され、保存されたためです。この日高遺跡は生産域である水田跡に加えて、居住域（環濠集落跡^{かんごうしゅうらくあと}）と墓域（【イ】）が一体的に保存され、1989（平成元）年に国史跡に指定されています。

ア (1) 縄文 (2) 弥生 (3) 古墳 (4) 奈良

〔正解 2〕

- イ (1) 円形周溝墓 (2) 前方後円墳
(3) 前方後方墳 (4) 方墳

〔正解 1〕

●解説

日高遺跡は1977（昭和52）年に、関越自動車道建設工事に先立つ発掘調査の際に発見された弥生時代の遺跡です。居住域にあたる環濠集落全体が保存されている国指定史跡は関東地方では日高遺跡のほか神崎遺跡（神奈川県綾瀬市）と少なく、生産域、居住域、墓域が一体的に保存されている例は、日本でも日高遺跡のみです。

問3

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎地域は、古代において榛名山と浅間山の大規模な噴火災害を受けました。平安時代末期の浅間山大噴火の際には、大量の軽石が噴出し、その下からは広大な水田遺跡が検出されています。その時の軽石は、浅間山噴火の歴史的な順番から【ア】と呼ばれています。噴火は上野国一帯に壊滅的な打撃を与えたことから、被害の様子はすぐさま京の都に伝えられました。

当時右大臣であった藤原宗忠はこのことを日記『中右記』^{ちゅうゆうき}に書き残しており、その日付から、噴火の年代は【イ】であったことが判明しています。

- ア (1) 浅間A軽石 (2) 浅間B軽石
(3) 浅間C軽石 (4) 浅間D軽石

〔正解 2〕

- イ (1) 818（弘仁9）年 (2) 869（貞観11）年
(3) 1096（永長元）年 (4) 1108（天仁元）年

〔正解 4〕

●解説

活火山である浅間山は太古から何度も噴火を繰り返してきました。有史（西暦1年）以降では、①3世紀後半、②1108（天仁元）年、③1783（天明3）年に大噴火を起こしたことが知られています。

①の噴火は古墳時代前期で、噴出した軽石は浅間C軽石と呼ばれます。西毛地域ではこの軽石に埋没した水田跡や住居跡が多く見つかっています。②の噴火は平安時代後期で、噴出物は浅間B軽石と呼ばれ、群馬県一帯の水田跡を覆っています。③の噴火は江戸時代後期に発生し、その噴出物は浅間A軽石と呼ばれ、西毛一帯の耕作地を埋没させています。この噴火の際には、発生した土石流が吾妻川・利根川流域を流れ下り、洪水によって河川兩岸の村落や耕地が埋没しています。

群馬県地域は度重なる火山災害を被っていますが、火山噴出物に埋もれた遺跡を調査することによって、災害を克服してきた先人たちの尊い営みを知ることが出来ます。

問4

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

群馬地域にある前方後円墳の【ア】古墳には、二重の周濠^{しゅうごう}が巡っています。濠の間の内堤の上には、およそ【イ】の人物・動物埴輪が規則性をもって並んでいます。そこには、王や巫女、琴を弾く人からなる儀礼の場面、狩人と犬、【ウ】からなる狩猟の場面などがあり、古墳に埋葬された人物の生前のマツリゴトの様子が表されています。この埴輪群像は、国内でもたいへん著名であり、多くの書籍に紹介されています。

- ア (1) 井出二子山 (2) 観音塚
(3) 観音山 (4) 保渡田八幡塚

〔正解 4〕

- イ (1) 10体 (2) 50体 (3) 100体 (4) 200体

〔正解 2〕

- ウ (1) ^{いのしし}猪 (2) ^う鶇 (3) ^{うま}馬 (4) ^{かも}鴨

〔正解 1〕

●解説

保渡田八幡塚古墳から出土した5世紀後半の人物・動物埴輪群は、わが国を代表する史料として有名です。54体の埴輪群像は、内堤にまとまって配列されており、そこには次の7つの場面が表現されています。

①王と巫女を中心とした水のまつりの場面、②王と巫女の立ち姿での儀礼の場面、③武人と力士による武威の場面、④甲冑や馬を連ね、王の武力・経済力を示した場面、⑤猪狩り場面、⑥鷹狩り場面、⑦鵜飼の場面。

これらの埴輪は、古墳に埋葬された王が、生前に行った神まつりや儀礼のようすを表現していたと考えられます。共同体の人々は、亡き王が神意をきいて、正しくマツリゴトを行い、共同体に安寧をもたらしたことを、埴輪を通じて確認したのでしょう。

問5

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1967（昭和42）年、綿貫町にある観音山古墳から未盗掘の【ア】が見つかり、多量の副葬品が出土しました。これらは一括して国宝に指定されています。なかでも、中国の北齊ほくせいで作られたとみられる【イ】は極めて希少な逸品として著名です。被葬者の頭部あたりから出土した獣帯じゅうたい鏡きやうは、朝鮮半島の【ウ】の武寧王ぶねいおうの陵墓から出土した鏡と同じ鋳型で作られたものとされています。これらのことから、観音山古墳の被葬者は東アジア世界と深い交流があったことが分かります。

- ア （1）家形石棺 （2）竪穴式住居
（3）竪穴式石室 （4）横穴式石室

〔正解 4〕

- イ （1）花卉付雲珠うず （2）金銅製鈴付大帯こんどうせいすずつきおおおび
（3）三累環頭大刀さんるいかんとう た （4）銅製水瓶すいびやう

〔正解 4〕

- ウ （1）伽耶かや （2）百濟くだら （3）高句麗こうくり （4）新羅しらぎ

〔正解 2〕

●解説

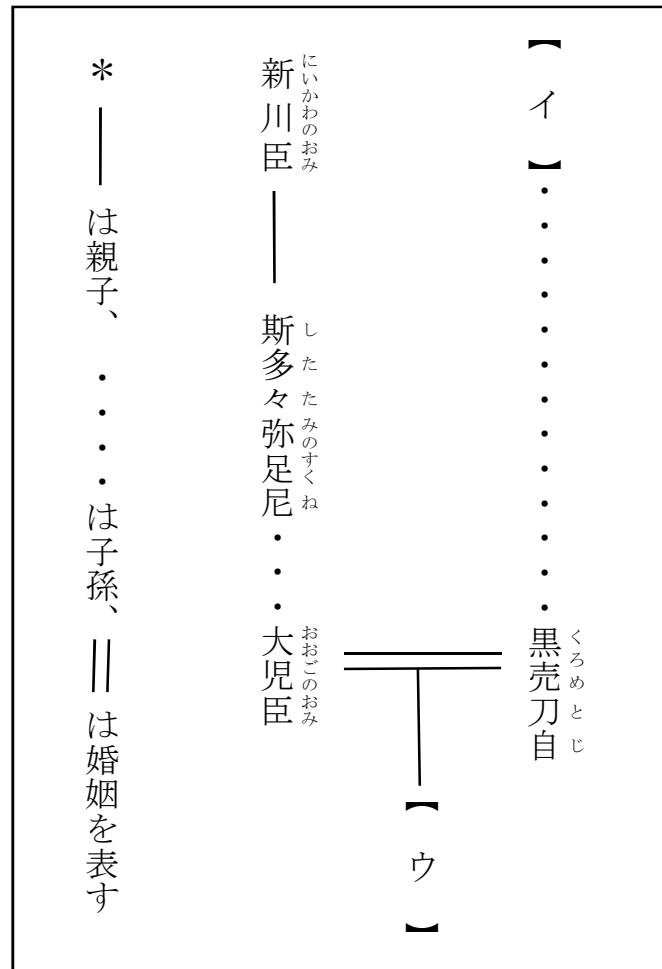
2020（令和2）年9月、観音山古墳の出土品は一括して国宝に指定されました。未盗掘の横穴式石室から出土した6世紀後半の副葬品に、朝鮮半島や中国で作られた外国製品が多数含まれていることも高く評価されました。

忍冬唐草文（にんどうからくさもん）をあしらった馬具（ぎょうよう杏葉）、把頭（つかがしら）にアルファベットのC字型を3つ連ねたデザインを用いた刀（さんるいかんとう三累環頭大刀）などは朝鮮半島南西部の^{しらぎ}新羅製品、仏像が持つような、頸が長く胴部が卵形をした銅製の壺（すいびょう水瓶）は中国北東部に存在した北齊（ほくせい）の製品と考えられています。ほかにも外国製品が多数副葬されていますが、同種のものがヤマト王権中枢には少ないことから、観音山古墳の被葬者が朝鮮半島に赴いて外交交渉を行う際に、直接入手した可能性が考えられます。

問 6

次の文章のうち、【ア】に適するもの、また下の系図の空きの部分【イ】、【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

国特別史跡でユネスコ【ア】でもある山上碑（681年建立）は、完存品としては日本最古の石碑として知られています。表面に53文字が刻まれ、そこには碑を建てた人物の家系が記されています。



- ア (1) 世界の記憶 (2) 世界自然遺産
(3) 世界文化遺産 (4) 無形文化遺産

- イ (1) ^{あらたわけ}荒田別 (2) ^{いそのかみのみこと}石上尊 (3) ^{たけもりのみこと}健守命 (4) ^{みやけのえみし}三家毛人
〔正解 1〕
〔正解 3〕

- ウ (1) ^{さいちょう}最澄 (2) ^{ちょうり}長利 (3) ^{どうちゅう}道忠 (4) ^{とくいっ}徳一

〔正解 2〕

●解説

山上碑の碑文からは、7世紀後半における群馬県地域の豪族の系図が読み取れます。碑を建てた長利は、「佐野三家」というヤマト王権直轄地の経営を任された人物（健守命）の末裔である黒売刀自と、東毛の名族・新川臣の末裔の大兄臣との間に生まれたセレブであったことが分かります。この碑は、長利の母・黒売刀自の供養塔であるとともに、長利が自分の血統を誇り、長く世に伝え、見せつけるための碑でもあったと考えられます。

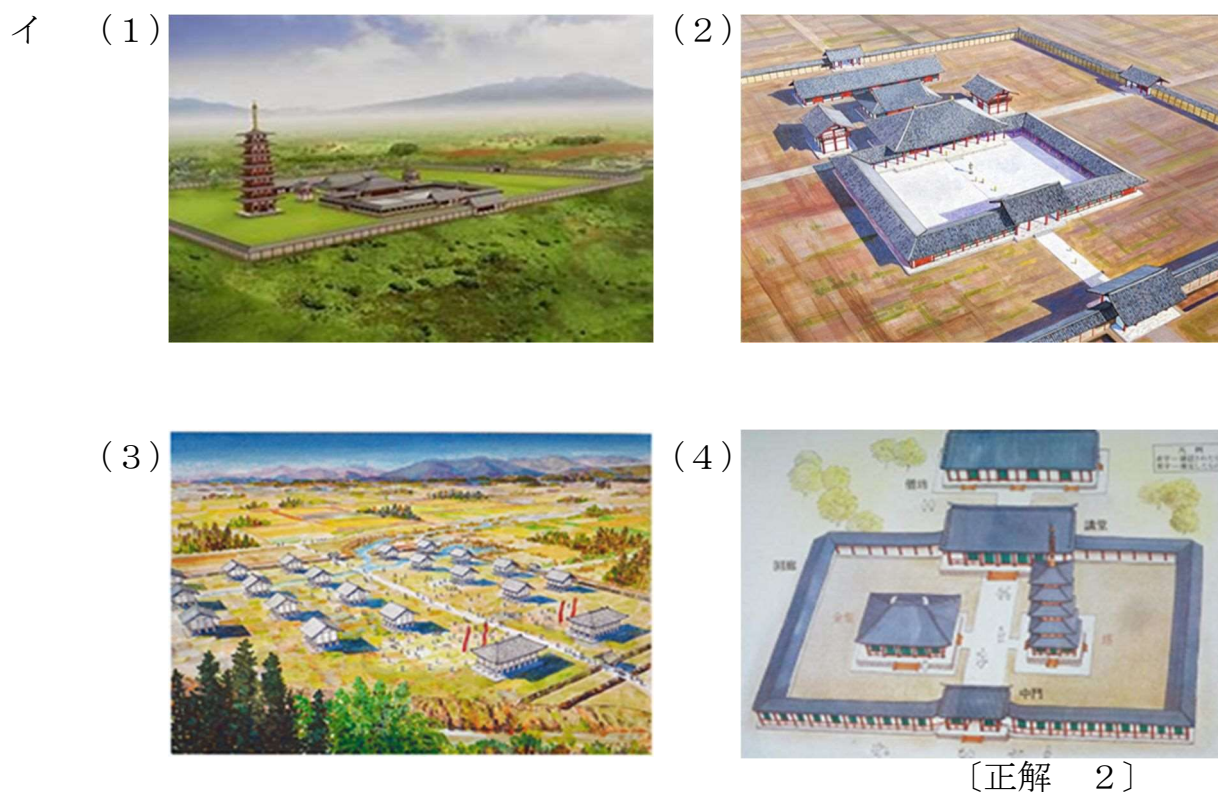
碑文には、長利は「放光寺（前橋市総社町の山王廃寺）の僧」とあります。放光寺は東国でも最古かつ最上級の寺院として著名です。当時の寺院が今日の大学のような存在であったことを考えると、長利は当時、東国でも有数のエリートであったと考えられます。だからこそ、日本最古級の石碑を造立するプロジェクトが行えたのです。

問 7

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか

8世紀の中頃に建立された上野国分寺の東方約500メートルの場所に【ア】が建立されました。高崎市教育委員会が2016（平成28）年から5年をかけて実施した確認調査により、塔はなかったこと、金堂や回廊、尼坊などの建物があつたことが分かり、伽藍配置がほぼ判明しました。調査成果から【イ】のようであったと考えられています。

ア （1）上野国分尼寺 （2）山王廃寺 （3）放光寺 （4）妙見寺
〔正解 1〕



●解説

上野国分尼寺は国分僧寺の東方約500メートルの場所に建立されました。寺域は高崎市東国分町と前橋市元総社町のまたぐ1町半（約162メートル）四方という広さでした。群馬県教育委員会による範囲確認調査、前橋市埋蔵文化財発掘調査団による寺域確認調査を受け、2016（平成28）年から5年をかけて高崎市教育委員会が行ってきた寺域確認調査により、

尼寺の概要が分かってきました。

その結果、伽藍の南北中軸線上に中門、金堂、講堂（推定）、尼坊が直列に並ぶこと、尼坊の規模は東西45メートル、南北10.8メートルと推定され、国内最大級であること、伽藍の北辺、東辺は築地塀（築垣）で囲まれていることなどが判明しました。



上野国分寺（上野国分僧寺）



上野国分尼寺

問 8

次の文章のうち、【 】に適するものは、下の選択肢のどれでしょうか。

『万葉集』巻14に、「伊香保風 吹く日吹かぬ日 ありといへど 我が恋のみし 時なかりけり」（伊香保の風は 吹く日も吹かぬ日も あるというが わたしの恋だけは 時の別もない*）という歌がありますが、伊香保とは【 】を指しています。

*小島憲之・木下正俊・東野治之校注・訳

1995『新編日本古典文学全集8・萬葉集（3）』小学館

（1）伊香保温泉 （2）小野子山 （3）子持山 （4）榛名山

〔正解 4〕

●解説

いわゆる東歌、東国で歌われた短歌の中に「上野国歌」が25首あり、その内9首が「伊香保の沼」、「伊香保嶺」といった地名が登場します。後の古今和歌集などにも「伊香保の沼」、「伊香保風」があり、伊香保とは榛名山全体を指しています。

問 9

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

【ア】は、新田義重の子が1170年代に豊前国宇佐神宮の分霊を勧請し社殿を造営したといわれます。近隣の寺尾に滞在していた南朝の尹良親王が、我が子の安産を祈願した伝聞から子育ての神としても信仰されています。また、祭神である神功皇后の神話に基づく【イ】は、子供の【ウ】の縁起物として祖父母から孫へ与える風習が残っており、群馬県郷土伝統民芸品として古来人気があります。

- ア (1) 愛宕神社 (2) 小祝神社
(3) 進雄神社 (4) 山名八幡宮

- イ (1) 黄鮒 (2) 箆かぶり犬 (3) 昇り猿 (4) 張子の獅子頭
〔正解 4〕

- ウ (1) 悪病除け (2) 成長 (3) 節句 (4) 虫切り
〔正解 4〕

●解説

清和源氏の一家系である河内源氏新田義重の子嘉範は、山名郷（高崎市山名町周辺）を本貫としたことから山名氏を称するようになり、安元年中（1175～1177）に宇佐八幡宮（宇佐神宮）より勧請し山名八幡宮を建立したと伝えられます。嘉範は山名氏の祖といわれ、そのため当社は全国の山名一族にとっての総氏社でもあります。

当社の祭神は勧請元の宇佐八幡宮と同じく応神天皇、比売大神、神功皇后の三柱です。祭神の神功皇后が三韓遠征の折に、高麗国より献上された唐獅子を幼い応神天皇に与えたところ健やかに成長されたという神話があり、疳の虫や厄を喰い切るお守りとして、張子で作られた獅子頭を子供の虫切りや厄切りの縁起物として祖父母から孫へ与えるという風習が残っており、群馬県の郷土伝統民芸品に指定されています。また、室町時代に後醍醐天皇の孫といわれる尹良親王が東国各地を転戦中に寺尾に滞在した折に、城主世良田政義の娘との間に授かった子の安産を願い、当社に祈願したところ無事男子が生まれたという言い伝えもあり安産・子育ての神として信仰されています。

問 1 0

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

新田氏一族の山名氏は鎌倉時代に入る頃から山名郷（山名町）を拠点に活躍します。山名郷には【ア】やその支道が通り、これらの道沿いには宿が形成され、山名氏の居館とともに、時宗の【イ】などの寺社が分布していました。

ア （１）鎌倉街道 （２）信州街道 （３）中山道 （４）三国街道
〔正解 １〕

イ （１）興禅寺 （２）光台寺 （３）慈眼寺 （４）来迎寺
〔正解 ２〕

●解説

鎌倉時代に入るところから、山名郷を拠点に新田氏一族の山名氏が活躍します。山名氏は現光台寺付近に館を構えたといわれ、その周囲には、山名八幡宮（山名町）などの寺社が分布していました。こうした館や寺社に接するように鎌倉に向かう主要な道の鎌倉街道やその支道が通り、道沿いには宿とよばれる大きな集落も形成されました。来迎阿弥陀画像板碑（市指定史跡）（山名町）をはじめとした石造物が街道付近に残り、当時を偲ばせています。

問 1 1

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

鎌倉幕府の最初の将軍である源頼朝が亡くなると、2代目将軍の頼家を支えるために13人の有力御家人などで構成される合議制が成立しました。その13人のうちの1人である【ア】は上野国の御家人を統率し国内寺社の管理などの権限を有する「上野国奉公人」で、その子孫は1285（弘安8）年の霜月騒動で没落するまでの間、上野国守護として、【イ】周辺を拠点の一つにしていました。

ア (1) 安達盛長^{あだちもりなが} (2) 梶原景時^{かじわらかげとき} (3) 北条時政^{ほうじょうときまさ} (4) 北条義時^{ほうじょうよしとき}

〔正解 1〕

イ (1) 里見 (2) 神保 (3) 多比良 (4) 八幡

〔正解 4〕

●解説

鎌倉時代初期に成立した幕府の合議制は13人の有力御家人で構成されましたが、そのうちの1人である安達盛長は、上野国奉行人として上野国の御家人を統率しました。安達氏は家督を盛長の長男の景盛^{かげもり}に引き継ぎ、さらに義景、泰盛と継いで、上野国守護として、交通の要地であった八幡から板鼻を拠点の一つにしていました。

問12

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

鎌倉幕府を支えた有力御家人の【ア】義盛が政権内の争いに敗れ、その子供の義信が上野国群馬郡和田山へ逃れ、その後、同郡【イ】へ移り地盤として城を築き、信高の代に地名を【イ】から【ア】に改めたといわれます。井伊直政が箕輪から【ア】の地へ移城した際に、龍広寺住職のアドバイスを受け城地を高崎と名付けたといわれています。

ア (1) 里見 (2) 高松 (3) 長野 (4) 和田

〔正解 4〕

イ (1) 赤坂 (2) 飯塚 (3) 片岡 (4) 国府

〔正解 1〕

●解説

烏川に架かる和田橋の東端付近にあったとされる和田城の城主和田氏は、鎌倉幕府初代侍所別当に任じられた和田義盛の後裔と伝えられます。義盛は鎌倉幕府の内乱「和田合戦」において敗死しますが、子息のひとり義信(義国との説もあります)が上野国群馬郡和田山へ逃れ、その後、同郡赤坂へ移住し、信高の代に赤坂の地を和田と改めたといわれます。

1598（慶長3）年、箕輪城主井伊直政が和田城跡に新たな城を築いた際に、龍広寺住職白菴に地名を「松ヶ崎」と改めたい旨相談すると、白菴から「公は既に命を奉りてこの城を築いたことは、所謂盛事大名である。されば成功高大の義を取って高崎とされては如何」との進言を受けて高崎と名付け、龍広寺に「高崎山」の山号を与えました。

問13 次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

吉井町神保にある【ア】は、室町時代の1522（大永2）年の創建と伝えられています。境内には初代住職お手植と伝えられる樹齢約500年、樹高約21.0メートル、目通り外周4.8メートルの【イ】があり、天宮様の宿り木といわれ火防のご神木として信仰されています。県指定天然記念物です。

ア （1）延命密院 （2）弘福寺 （3）常行院 （4）仁叟寺
〔正解 4〕

イ （1）カヤ （2）クス （3）ケヤキ （4）マキ
〔正解 1〕

●解説

吉井町神保にある仁叟寺は、室町時代の1522（大永2）年の創建と伝えられています。境内には初代住職お手植えと伝えられる樹齢500年、樹高約21メートル、目通り外周4.8メートルのカヤの木があり、天宮様の宿り木といわれ火防のご神木として信仰されています。1992（平成4）年には樹勢が衰えましたが、保護養生の結果、もちなおしました。県指定天然記念物です。

問 1 4

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

箕輪城主の井伊直政は【ア】、箕輪から高崎に城と町を移しました。箕輪城では丘陵を利用した平山城でしたが、高崎城では平城となり、城の前面に広大な平地が広がり町を形成することが可能になりました。さらに町を囲う【イ】とよばれる堀と土塁が構築され、区画されるようになりました。

- ア (1) 1566 (永禄9) 年 (2) 1590 (天正18) 年
(3) 1598 (慶長3) 年 (4) 1619 (元和5) 年

〔正解 3〕

- イ (1) 御土居堀 (2) 総囲い (3) 遠構え (4) 総曲輪

〔正解 3〕

●解説

1598 (慶長3) 年、箕輪城主の井伊直政が、城を和田の地に移し、新たに高崎城を築城し、城下町を整備しました。

16世紀末に小田原北条氏が小田原城とその城下町を囲う総距離9キロメートルにも及ぶ堀と土塁の総構えを構築し、さらに豊臣秀吉は京都の町を囲う土塁である御土居を築くなど、この時期の城下町建設では全国的に町を堀や土塁で囲う方法が採られることが多く、高崎城の城下町を囲う「遠構え」の構築はそうした全国的な流れの中に位置づけられます。

問 1 5

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

榛名山東南麓に位置する箕郷地域・群馬地域には、相馬ヶ原扇状地が広がっています。本来扇状地は、保水力が弱くて傾斜率も高いことから、稲作には適していません。そこで1649 (慶安2) 年、【ア】は、扇状地上を流れる唐沢川を堰き止めて【イ】堤を造りました。現在、堤とその周辺は【イ】公園として整備され、市民の憩いの場となっています。

ア (1) 前橋藩 (2) 高崎藩 (3) 岩鼻代官所 (4) 幕府
〔正解 2〕

イ (1) 足門 (2) 浜川 (3) 三ツ寺 (4) 敷島
〔正解 3〕

●解説

相馬ヶ原扇状地は、地質学的には火山性扇状地に分類され、基本的に土壌は保水力が弱く、流下する川の水量は多くありません。しかし伏流水が地表に湧出する扇端部^{せんたん}では、古くから溜池をつくることが行われてきました。一方、扇央部では水を得ることは難しく、稲作には適していません。そこで高崎藩は、石高を上げて年貢収量を増やすために、溜池をつくって灌漑^{かんがい}と新田開発を行ったのです。

1649（慶安2）年、高崎藩（藩主安藤重信^{あんどうしげのぶ}）は、相馬ヶ原扇状地を流れる唐沢川及びその支流の中島川を締め切って溜池を築造しました。以来、近世では「三ツ寺溜井^{ためい}」と呼ばれ、当地の棟高・中泉・三ツ寺の三か村が組合をつくり、周辺地域を潤してきました（近代以降は天王川から取水）。

しかし豪雨などで増水すると、溜井はしばしば損壊して土砂が堆積しました。そのため普請^{ふしん}が行われましたが、実際に1686（貞享3）年と、1786（天明6）年には、藩が主導して大規模な浚渫^{しゅんせつ}工事を実施しています。また溜井に流入・堆積した土砂は、通常でも30年ごとに浚渫する必要がありますでしたが、その都度1日1000人の人夫を21日間動員しなくてはなりませんでした。

なお、現在新たに当地に付設された公園内にある「三ツ寺堤」の碑には、築堤の歴史的経緯とその意義が述べられています。

問 1 6 次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1783（天明3）年に発生した【ア】大噴火は、今年は数えて240回忌（60年で一巡する干支^{えと}の4巡目）にあたり、被災地各地で供養祭が計画・実施されています。

この噴火は、火口から溶岩が流出、併発した山麓の土石流は山麓の鎌原村を埋め、更に吾妻川・利根川沿岸の村々を巻き込み多数の死者を出しました。

安中から高崎は大量の降灰による大被害でした。当時高崎田町の絹問屋の妻で【 イ 】であった【 ウ 】は、『文月浅間記』で「板^{ふみづき}庇^{あさまき}は重み^{ひさし}でたわみ落ち、小さな家々は柱が折れ壁代^{かべしろ}が離れて傾いてしまっているものも見られ、また、それが一瞬のうちに倒れて、梁^{はり}の下から這い出てくる人もおります。」などと記しています。

ア (1) 赤城山 (2) 浅間山 (3) 草津白根山 (4) 榛名山

〔正解 2〕

イ (1) 医者 (2) 漢学者 (3) 国学者 (4) 俳人

〔正解 4〕

ウ (1) 加賀千代女^{かがのちよじょ} (2) 谷紅藍^{たにこうらん}
(3) 羽鳥一紅^{はとりいつこう} (4) 平田玉蘊^{ひらたぎょうん}

〔正解 3〕

●解説

1783（天明3）年に発生した浅間山大噴火は、今年は数えて240回忌（60年で一巡する千支^{えと}の4巡目）にあたり、被災地各地で供養祭が計画・実施されています。

この噴火は、火口から溶岩が流出、併発した山麓の土石流は山麓の鎌原村を埋め、更に吾妻川・利根川沿岸の村々を巻き込み多数の死者を出しました。

当時、高崎田町の絹問屋の妻で俳人の羽鳥一紅は、『文月浅間記』でこの時体験した浅間山の活動と高崎の降灰大被害の様子を、不安と恐怖を交えて克明に記しています。

問 1 7

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

2016（平成28）年に世界かんがい施設遺産に登録された長野堰用水は、高崎市【ア】の頭首工で烏川から取水し、水利に乏しい高崎台地を北西から南東に灌漑^{かんがい}しています。

城東小学校すぐ南の【イ】では、受益面積に応じて【ウ】の堰に分水されます。下流域では、干ばつのたびに激しい水争いが繰り返されましたが、【イ】の完成により、下流域での水争いは落ち着きました。

ア （1）沖町 （2）高浜町 （3）本郷町 （4）我峰町

〔正解 3〕

イ （1）円筒分水堰 （2）水門 （3）ため池 （4）ポンプ場

〔正解 1〕

ウ （1）3つ （2）4つ （3）5つ （4）6つ

〔正解 2〕

●解説

本郷町に設けられた頭首工で取水される長野堰は、北西から南東方向に高崎市内を進み、高崎台地を灌漑^{かんがい}しています。

城東小学校すぐ南で、地獄堰・上中居堰・矢中堰・倉賀野堰の4水路に分水されますが、かつてはここで分水される水量をめぐり、下流域での争いが絶えませんでした。そこで、1962（昭和37）年、受益面積に応じて公平に分水するための施設として円筒分水堰が建設され、これにより下流域での水争いは落ち着くこととなりました。

問 1 8

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎城下の田町は、安藤重博が藩主の時代に設けられた六斎市に、【ア】の時代になると絹市が重なり、市日の五・十日は東国第一繁昌の大市と言われるようになりました。交通の要所でもあることから【イ】

など都市呉服問屋が進出し、近江商人も数多く出店するなど「商都高崎」が確立します。商業の繁栄を象徴するものとして、守随家しゅずいけによって管掌・独占された江戸【ウ】の出張所の一つが高崎にありました。

- ア (1) 酒井家次さかいいえつぐ (2) 松平輝貞まつだいらてるさだ
(3) 松平信吉まつだいらのぶよし (4) 間部詮房まなべあきふさ

〔正解 2〕

- イ (1) 越後屋 (2) 高島屋 (3) 天満屋 (4) 松坂屋

〔正解 1〕

- ウ (1) 銀座 (2) 極印取締ごくいんとりしまり (3) 酒造鑑札しゅぞうかんさつ (4) 秤座はかりざ

〔正解 4〕

●解説

高崎城主安藤重博が城下町の繁栄を願って、本町・田町・新町（現あら町）の三町に六斎市を設定しました。月に六日開かれる市は大いに栄え、なかでも田町の市日である五日と十日の繁盛ぶりは「東国第一繁昌の大市」と評されるほどになります。次に、高崎城主になった松平輝貞の享保年代（1716～1736）になると、絹の生産流通が著しく増大し呉服問屋が競って出店するようになり、当時の典型的な都市呉服問屋の三井越後屋が田町に開いた店が上州進出最初の店といわれます。また、京都西陣へ送る生糸を扱うなどの近江商人が絹市の立つ城下の有力者宅を定宿として商いを始め、やがて出店を設けるようになりました。

高崎の商業が繁栄していた象徴として、江戸秤座守随家の出張所（地方秤座）の一つ高崎秤役所があります。秤の製作・販売・補修から秤改めを独占した秤座は、商業が繁栄していた全国有数の町に出店し、東33カ国は守随家が、西33カ国は神家が支配しました。地方秤座のうち守随家の分家による店は名古屋と高崎の二ヶ所だけで、高崎は四代目守随彦太郎の三男彦三郎が任されました。彦三郎は高崎に骨を埋め墓は通町の大信寺にあります。

問 19

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

中山道の倉賀野宿と本庄宿の間の距離が3里20町を隔てており、交通運輸のうえで多大の不便があったことから、落合新宿と笛木新宿を合併して新町宿が設けられました。中山道で最も【ア】宿です。新町宿と倉賀野宿の間を流れる【イ】を渡河するのに兩岸の村民を動員していましたが、1759（宝暦9）年に【ウ】の請負が新町宿の間屋年寄に決定しました。その後上り旅人の渡船は新町宿、下り渡船は倉賀野宿が請負う形態になりました。

- ア （１）新しい （２）家数が少ない
（３）短い （４）旅籠数が少ない

〔正解 １〕

- イ （１）井野川 （２）烏川 （３）染谷川 （４）利根川

〔正解 ２〕

- ウ （１）岩鼻渡船 （２）立石渡船 （３）森渡船 （４）柳瀬渡船

〔正解 ４〕

●解説

中山道倉賀野宿と本庄宿の間は3里20町（約14キロメートル）を隔ており、交通運輸のうえで多大の不便がありました。そこで落合新宿（落合新町）に笛木新宿（笛木村）から十数戸移転させて伝馬宿を形成させたのが新町宿の起源とされ、1654（承応3）年の成立につき中山道で最も新しい宿場です。

新町宿は倉賀野宿との間に烏川が流れており、江戸時代の前期は、烏川右岸の中島村と左岸の岩鼻村の村民に瀬舟稼ぎが自由に任せられていたようですが、中山道の交通量が増大すると渡船業が促進され、1759（宝暦9）年に柳瀬渡船の請負が新町宿の間屋年寄に決定しました。その後、倉賀野宿側から増水の川留や川明の際に不便であると訴願があり、下り渡船（岩鼻村から中島村への渡船）に限り倉賀野宿への請負が認められ、上り新町宿、下り倉賀野宿の請負形態になりました。

問 20

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

箕郷町西明屋の旧下田邸は、箕輪城主長野氏の重臣、下田大膳正勝の子孫が、落城後この地に土着し、居を構えた屋敷跡です。1683（天和3）年、【ア】の陣屋が白川に置かれると同時に、代官に任命され、以後、明治維新までその役職を務めました。

平屋建て、切り妻造りの書院は、式台を設けた玄関など武家住宅の格式を備えるとともに、随所に数寄屋風の意匠が見られます。特に、ブドウとリスが彫られた【イ】の彫刻は繊細かつ優美なもので見事です。

また、庭園は、県内では数少ない江戸時代の庭園で、忠臣蔵で名高い【ウ】が築造したものともいわれています。

ア （1）安房勝山藩 （2）川越藩 （3）幕府 （4）前橋藩

〔正解 1〕

イ （1）障子 （2）天井 （3）柱 （4）欄間

〔正解 4〕

ウ （1）あさのたくみのかみ浅野内匠頭 （2）おおいしくらのすけ大石内蔵助
（3）き こうずけのすけ吉良上野介 （4）ほりべやすべえ堀部安兵衛

〔正解 4〕

●解説

箕郷町西明屋の旧下田邸は、箕輪城主長野氏の重臣、下田大膳正勝の子孫で、安房勝山藩の代官を代々務めた下田家の屋敷跡です。

江戸時代初期の様式を残した書院は、随所に数寄屋風の意匠が見られます。特に、ブドウとリスが彫られた欄間の彫刻は繊細かつ優美なもので見事です。

また、忠臣蔵で名高い堀部安兵衛が築造したものと伝わる庭園は、県内では数少ない江戸時代の庭園です。アカマツやヤマモミジなどの樹木が植栽され、素朴な中にも四季折々の表情を持つこの庭は、「青翠園」の名で親しまれ、多くの文人墨客が訪れました。

書院と庭園と併せて県指定重要文化財となっています。

問 2 1

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

【ア】は念流正統七世の友松偽庵^{ともまつぎあん}に入門し、永年の修行の結果「印可」を授けられ八世を称することを許されます。多胡郡【イ】に道場を開いたことから、その流派は【イ】念流と呼ばれるようになりました。【ア】が村上天流と高崎烏川原で決闘したことや、十七世のとき北辰一刀流千葉周作と起こした伊香保神社奉額事件など剣豪としての逸話がありますが、この流派の剣技は「【ウ】」で農民や町民に普及し上州一帯が最盛地となりました。

- ア (1) 海保帆平^{かいほはんぺい} (2) 上泉信綱^{かみいずみのぶつな}
 (3) 樋口定次^{ひぐちさだつぐ} (4) 本間仙五郎^{ほんませんごろう}

〔正解 3〕

- イ (1) 石神 (2) 神保 (3) 長根 (4) 馬庭

〔正解 4〕

- ウ (1) 気組 (2) 切り返し (3) 自衛の剣 (4) 無刀取り

〔正解 3〕

●解説

初めての剣術流派である念流の鼻祖は奥州相馬（現南相馬市）の住人念阿弥慈恩^{ねんなみじおん}（俗名相馬四郎義元）といい、念和尚の直門弟の一人樋口家十一代目の兼重は兼重念流を称しましたが、十三代高重の代に上州多胡郡馬庭村に住んだ頃から、家伝の兵法を念流から次第に新刀流に変えていました。十七代定次がたまたま遊歴して来た念流七世友松偽庵に入門し、「印可」を与えられ、念流八世を名乗り再び念流の道場を開きました。樋口家により代々この地に伝わる念流は地名を冠して「馬庭念流」と呼ばれています。

定次の門人が西上州を中心に広がったころ、村上権左衛門という兵法者が流れてきて高崎城下に「日本無双天流指南所」の大看板を掲げ、力を誇示し念流門人に対する徴発を繰り返したため双方の門弟が一触即発状況となりました。定次は血気にはやる弟子たちを抑えるため村上と雌雄を決することとなり、烏川原において決闘に及び打ち負かします。また、十七世定輝のときには、北辰一刀流千葉周作が流派の力を誇示する

ため、既に念流の奉額がなされていた伊香保神社に奉額を企て騒動となりますが、岩鼻陣屋代官などの努力もあり周作の奉額は封じ込まれました。剣豪としての確執もありましたが、馬庭念流は上州一帯を最盛地として農民や町民を中心に自衛の剣として普及しました。

問 2 2 次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

江戸時代、高崎城下九蔵町出身の【ア】に、生方雨什うぶかたうじゅうという人物がいました。彼は江戸の宗匠である白井鳥酔しらいちようすいが開いた社中「松露庵」しょうろあんの主となります。その後、帰郷した雨什は、高崎に「春秋庵」しゅんじゅうあんを開きました。また雨什は【イ】の作者としても有名で、「この石の下にいらんとかねてより我名もあなもほりておく也」という辞世を残しています。

ア (1) 絵師 (2) 書家 (3) 茶人 (4) 俳人

〔正解 4〕

イ (1) 狂歌 (2) 川柳 (3) 短歌 (4) 俳諧

〔正解 1〕

●解説

江戸時代の高崎の俳人である生方雨什うぶかたうじゅうは、高崎城下九蔵町の商家に生まれ、通称は袋屋宗兵衛といました。1790（寛政2）年、雨什は江戸に出ました。江戸俳壇の宗匠・白井鳥酔しらいちようすいが開き、その弟子の左明さめい（二世）、鳥明うめい（三世）が継承した社中「松露庵」しょうろあん四世となるためでした。しかし10年後、高崎に戻った雨什は新たに自らの社中「平花庵」を開き、高崎・上州俳壇の中心的な人物となります。

また、狂歌も嗜んだ雨什には「埴出鷹久」ねぐらでのたかひさという別名がありました。彼のお墓は、高崎市あら町の延養寺墓地（八幡霊園）にあります。そこには「この石の下にいらんとかねてよりわが名もあなもほりてをくなり也」と刻まれています。歌意は「この墓石の下に入ろうと、死ぬ前から自分の名前と骨が入る穴をほっておくよ」でしょうか。

なお、雨仕の墓の近くには、同時期に活躍した俳人である羽鳥一紅夫妻の墓もあります。

問 2 3

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

「幕末三大兵学者」と称される人のうち二人が高崎の出身者です。一人は高崎の医師の子に生まれた【ア】で、剣術、槍術、砲術など諸流の他に、天文、兵学を修め、『火砲要録』など砲術書や兵学に関する書を多く著しています。

もう一人の市川一学は高崎藩士ですが、長沼流兵学の塾を開き、幕府の海防策にも参画しています。1854（安政元）年に津軽海峡を見下ろす蝦夷地に和式築城の最後と言われる【イ】の縄張りを行い完成させました。

- ア (1) おおとりけいすけ 大鳥圭介 (2) こんどうじゅうぞう 近藤重蔵
 (3) しみずせきじょう 清水赤城 (4) まみやりんぞう 間宮林蔵

〔正解 3〕

- イ (1) 木古内城 (2) 箱館城 (3) 福島城 (4) 松前城

〔正解 4〕

●解説

「幕末三大兵法家」と称される清水赤城は上野国群馬郡並榎村（現高崎市並榎町）の医師清水俊達の三男に生まれました。父に従って江戸へ移り13歳で儒学塾に入門し、その後専門の師について天文・兵法・剣鎗・砲術などを学び、やがて兵学をもって一家をなしました。特に砲術に優れ『火砲要録』など多くの砲術書や兵書を著作し、砲術家として名声が上がり諸侯をはじめ門人が多く、晩年には塾を設け子弟の教育にあたりました。四男の大橋訥庵は坂下門外いちかわかくめいの変の指導者として知られます。

もう一人の市川一学は高崎藩儒者市川鶴鳴の子に生まれ、18歳で昌平しょうへいこう塾ものがしらに学び、のち高崎藩の儒学者になり200石取り者頭上席に就いています。長沼流兵学者としても著名で、江戸で兵学塾を開き諸藩の子弟に教授を行い、幕府の海防にも参画しています。1849（嘉永2）年に

蝦夷地松前の藩主松前崇広がロシアの南下に備えるよう幕命を受け、城郭を築くため高崎藩主に懇請して藩士の一学を招き、津軽海峡を見下ろす地に松前城（福山城）を築きました。一学が縄張りをとった城は1854（安政元）年に完成し、火砲攻撃に強く極寒の地に絶える構造で、和式築城の最後の城郭といわれます。

問 2 4

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

司馬遼太郎をして【ア】と言わしめた小栗忠順は、1860（安政7）年、日米修好通商条約批准のための遣米使節目付として【イ】で渡米し、その後、地球を一周して帰国しました。帰国後は、要職を歴任し、横須賀製鉄所の建設をはじめとして、日本の近代化に尽力します。

大政奉還後、徹底抗戦を主張するも容れられず、権田村（倉渕町権田）に隠棲しますが、官軍に捕らえられ斬首されました。墓は、倉渕町権田の【ウ】にあり、県指定史跡です。

- ア （１）徳川の良心 （２）江戸の聖人
 （３）明治の父 （４）近代の魂

〔正解 3〕

- イ （１）開陽丸 （２）咸臨丸
 （３）ポーハタン号 （４）ミシシッピ号

〔正解 3〕

- ウ （１）長年寺 （２）東善寺 （３）長谷寺 （４）来迎寺

〔正解 2〕

●解説

日米修好通商条約批准のため米艦ポーハタン号で渡米した小栗忠順は、地球を一周した後に帰国しました。帰国後は、多くの奉行を務めるなど要職を歴任し、江戸幕府の財政再建や、洋式軍隊の整備、横須賀製鉄所の建設などを行い、日本の近代化に尽力しました。

大政奉還後には、徹底抗戦を主張するも容れられず、権田村（倉渕町

権田)に隠棲しますが、「反逆の企て」があるとして官軍に捕らえられ、取り調べもないままに水沼川原（倉渚町水沼）に引き出され、斬首されました。

後に、作家の司馬遼太郎は、その著書『「明治」という国家』の中で、小栗忠順を「明治の父」と記し、その功績を評価しています。

問 2 5 次の文章のうち、【 】に適するものは、下の選択肢のどれでしょうか。

道祖神は古くから道の神、境界を守る神として信仰されています。

江戸時代には村外から疫病などの災いが侵入するのを防ぐために、道祖神塔が、辻や村境に建てられました。

道祖神塔には、主に二神が並び立つ【 】と文字塔の2種類があります。

(1)



(2)



(3)



(4)



〔正解 1〕

●解説

道祖神は旅人の安全を守り、塞^{さえ}の神として主に疫病を中心とした災害から村を守る神でもありました。そのため村境・峠・辻などに、石づくりの道祖神塔が建てられたのです。

このうち「双体道祖神」は、現世と冥界の境界の辻に立って人々を導く地蔵信仰と結びついたもので、初期のものは二神が並び立って合掌^{がっしょう}しています。一方で、境界は内と外を結びつける場所であり、縁を結ぶ意味を持っていました。そのため、二神のうち男神が左、女神が右に位置するなど、雛人形のような形状のものがつくられはじめます。

双体道祖神の形式は、前述した合掌型のほか、夫婦和合を示す「握手（抱擁）型」、盃を持つ男神と徳利^{しゅぎもち}を持つ女神が表現された「酒器持型」、二神が雲に乗り、男神が矛か杖を持つ「降臨型」などがあります。

全国^{しゅぎもち}の双体道祖神の分布については、長野県から伝播したという説があり、同県に多く存在するほか、隣接する山梨・岐阜県や東海・北陸地方などに見られます。本県でも西毛地域^{しゅぎもち}の中之条町・東吾妻町・下仁田町・安中市・富岡市・高崎市に数が多く、一方で、東毛地域の平野部には皆無の市町村もあります。

なお、高崎市倉渕町権田の熊久保地区の双体道祖神（合掌型）は1625（寛永2）年建立で、県内最古のものとされています（市指定重要有形民俗文化財）。

問 2 6

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎には県内で最も多くの獅子舞が伝承されています。高崎の獅子舞は一人立ちの三頭の獅子で構成され、【ア】やひょっとこ、狐などの面を被った【イ】と共に舞われます。その多くが【ウ】時代以降始まったと考えられています。

ア （１）うさぎ （２）鳥 （３）狸 （４）天狗

〔正解 ４〕

イ （１）鐘つき （２）カンカチ （３）ささら （４）太鼓持ち

〔正解 ２〕

ウ (1) 鎌倉 (2) 室町 (3) 江戸 (4) 明治

〔正解 3〕

●解説

高崎には39の獅子組があります。獅子舞は獅子の中に一人が入った三頭の獅子と先導役を務めるカンカチという付き人によって舞われる仮面劇です。

獅子は猪や鹿、竜の顔をモチーフにしている、目と鼻と口を大きく強調した顔付きをしています。雄獅子二頭と雌獅子一頭で編成され、腰に付けた太鼓を叩きながら大地を踏みしめるように舞われます。地域の鎮守の例大祭で奉納されるほか、雨乞いや疫病退散の祈願を目的に臨時に舞われることもありました。本来、神に奉納するための神事舞ですが、中には滑稽なストーリーと仕草で人々の目を楽しませる余興舞としての一面を持っています。



貝沢東組獅子舞（東貝沢町）

獅子舞がいつ頃、高崎の地に伝えられ、舞われるようになったのかはつきりしませんが、その多くが江戸時代以降に始まったと考えられています。

問27

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

烏川の右岸にのびる里見台地は、水はけが良いため果樹の生育に適しています。

現在の高崎市下里見町に生まれた富沢小平治は、【ア】に農民の生活を向上させるために、【イ】の研究を重ね、その栽培に成功しました。その後、榛名地域は、高崎市内でも有数の【イ】の産地となりました。

なお、上里見町にある大【イ】は、県指定天然記念物となっています。

- ア (1) 天明の飢饉のとき (2) 明治初期
(3) 昭和恐慌のとき (4) 太平洋戦争終結直後

〔正解 2〕

- イ (1) ウメ (2) クリ (3) ナシ (4) モモ

〔正解 3〕

●解説

鳥川の右岸に展開する低地帯を遡上すると、支流の里見川に沿って台地（里見台地）が形成されています。これは、5万年前に榛名山から噴出して堆積した「室田火砕流」によってつくられた火砕流台地です。

また、里見台地に並行して鳥川の河岸段丘が発達しています。当該地は水はけがよいため、畑作や養蚕のための桑が植えられました。

さらに近代になると、当地には果樹園が展開しました。これは、1851（嘉永4）年に現在の高崎市下里見町に生まれた富澤小平治が、1868（明治元）年に勢多郡木瀬村（前橋市）から梨の苗を移入し、植えたことから始まったものです。小平治は研究を重ね「里見梨」は名産品となります。その功績を称え、1970（昭和45）年には当地の郷見神社に「富澤小平治翁顕彰碑」が建てられました。

なお、上里見町には、小平治が移入した際の苗木の1本であったという「里見の大ナシ」が残されています。樹齢は約130年で、樹高は12メートルもあります。

問28

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

江戸時代後半から昭和の高度経済成長期にかけて、高崎市郊外や榛名山麓、鳥川・鎗川流域丘陵地には【ア】畑が広がり、屋根の棟上に換気のため高窓（ヤグラなどとも言う）を設けたり、前面のヒラを切り落として庇^{ひさし}をつけたりして【イ】を行う民家が多数ありました。市内にも生産品を扱う問屋が集まり市の主要産業の一つとなっていました。

その後、需要が低迷し衰退しましたが、市では、これらの家屋を保存するため、【ウ】制度を設け後世に伝える努力をしています。

ア (1) アサ (2) クワ (3) コウゾ (4) 茶

〔正解 2〕

イ (1) 蚕飼育 (2) 茶生産 (3) 干し柿生産 (4) 和紙生産

〔正解 1〕

ウ (1) 近世木造物登録 (2) 古民家建造物登録
(3) 寺社建造物登録 (4) 歴史的景観建造物登録

〔正解 4〕

●解説

江戸時代後半から昭和の高度経済成長期にかけて、高崎市郊外や榛名山麓、烏川・鎭川流域丘陵地にはクワ畑が広がり、屋根の棟上に換気のため高窓（ヤグラなどともいう）を設けたり、前面のヒラを切り落として庇をつけたりして蚕飼育を行い、マユを生産する多数の養蚕農家がありました。市内にもマユや生糸などを扱う問屋が集まり、市の主要産業の一つとなっていました。

その後、絹の需要が低迷し衰退しましたが、市ではこれらの家屋を保存するため、歴史的景観建造物登録制度を設け後世に伝える努力をしています。

問 29

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1875（明治8）年の物産取調書によれば、高崎近郊農村で生産されていた品目は、米・麦が最も多く、次いで【ア】となっています。

大正期の高崎は商業都市から商工業都市への飛躍がはかられました。

麦の生産と鉄道輸送の利を生かし、井上保三郎の主導で大正期には高崎駅の東側に麦わらを原料にした【イ】を生産する工場が創業し、高崎の産業を牽引しました。

また同じ大正期に高崎駅の南北に【ウ】が立地しました。

ア (1) 果樹 (2) 養蚕・製糸・製織
(3) 大豆など豆類 (4) 木綿・木綿糸・綿布

〔正解 2〕

イ (1) 板紙 (ボール紙) (2) 建材 (3) 固形燃料 (4) 飼料
〔正解 1〕

ウ (1) 製粉工場 (2) 納豆工場
(3) パン工場 (4) ビール工場

〔正解 1〕

●解説

明治維新後の高崎近郊の4カ農村の農業状況が、1874、1875（明治7、8）年の物産調書に記されています。

米麦の二毛作を中心に雑穀や豆類などの自給的側面、養蚕・製糸などの商品生産、梅や大根の漬物などの加工品、桐下駄などの手工業生産を行っていた近郊農村の姿を伝えています。

1875（明治8）年の4カ村の生産総額は2万6250円で、内訳の上位は米が8147円（約31.0%）、麦が2671円（約10.2%）で米麦の主穀生産が1万818円で総額の約41.2%を占めています。

次いで養蚕・製糸・製織関係が6092円で約23.2%となっています。

麵粉・そば粉が2711円で約10.3%、稗（ひえ）・粟・大豆・小豆などの雑穀・豆類が1763円で約6.7%となっており、米麦の補完食や味噌・しょうゆの原料としての需要が多かったです。果実等は栗や梅が生産されており、1450円、約5.5%となっています。

大正期の高崎は商工業都市への脱皮がはかられ、ボール紙を生産する高崎板紙が1914（大正3）年に創設されました。高崎近郊で生産される小麦の麦わらなどを原料にし、高崎の特色を最大限生かした優良企業でした。

明治の中頃までは水車製粉が主流でしたが、高崎では機械製粉による製粉業の気運が起こり、1918（大正7）年に上毛製粉を設立、館林発祥の日清製粉と合併し弓町に工場が開業しました。1919（大正8）年に下和田町に東洋製粉の高崎工場が操業、1920（大正9）年に日本製粉と合併し日本製粉高崎工場となりました。

1925（大正14）年の高崎駅貨物発着量は小麦粉、飼料、たばこ、板紙が出荷量の上位を占め、高崎の産業の特徴を反映しています。

問30

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1902（明治35）年、商業に必要な知識技能と普通教育の補修を目的とした高崎商業補修学校が設立されました。その後、正規の商業教育を行う学校の設置を望む声をうけ、高崎市立甲種商業学校へと生まれ変わりました。1917（大正6）年には台町に移転し、群馬県立高崎商業学校となりました。

1948（昭和23）年、学制改革により群馬県立高崎商業高等学校になりましたが、この時、【ア】制課程が導入されました。1970（昭和45）年に台町から東貝沢町（当時は貝沢町）に移転しましたが、これまでの卒業生は3万人以上にのぼり、地元経済界を中心に多くの人材が多方面で活躍しています。大きな【イ】を肩にかついで、カチカチと鳴らす応援風景は高校野球の見物となっています。

台町の校舎跡地には現在、高崎合同庁舎と【ウ】が建てられています。

ア （1）単位 （2）通信 （3）定時 （4）フレックス

〔正解 3〕

イ （1）キーボード （2）そろばん
（3）だるま （4）やかん

〔正解 2〕

ウ （1）高崎警察署 （2）高崎市北公民館
（3）高崎市立北小学校 （4）高崎市立第一中学校

〔正解 1〕

●解説

1899（明治32）年に群馬県高等女学校、1900（明治33）年に群馬県高崎中学校が開校し、普通中等教育がスタートしました。更に、1902（明治35）年、実業教育の一環として、商業に必要な知識技能と普通教育の補修を目的とした高崎商業補修学校が設立されました。商業補修学校は修業年限が2年と短く、授業も夕刻から夜間の2時間という限定的なものであったことから、正規の商業教育を行う学校の設置を望む声が高まり

ました。これを受け、1908（明治41）年、商業補修学校に代え、高崎市立甲種商業学校が設置され、予科（2年）、本科（3年）から成る商業教育が始まりました。1917（大正6）年には台町に移転し、群馬県立高崎商業学校となりました。



「群馬県立高崎商業高等学校之跡」碑

1948（昭和23）年、学制改革により群馬県立高崎商業高等学校になり、1970（昭和45）年に台町から現在地の東貝沢町（当時は貝沢町）に移転しました。台町の校舎跡地には高崎商業があったことを示す記念碑が建てられています。



昭和3年当時の校舎

問31 次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1900（明治33）年4月1日、高崎市制が施行され、7月に【ア】が初代高崎市長に選任されました。

1906（明治39）年、【ア】は、高崎市の基本方針となる高崎市是^{しぜ}について高崎市会議場で演説を行いました。市是では【イ】、公園の設置改築、伝染病院・市役所・学校の建築、道路や電灯の設置、市街地の拡張などが目指されました。商工業の発達も盛り込まれました。

【ア】は【ウ】の中心的な役割を担ったことでも知られています。

ア (1) ^{あまのむねただ}天野宗忠 (2) ^{おおこうちてるな}大河内輝聲 (3) ^{かとりもとひこ}楫取素彦 (4) ^{やじまはちろう}矢島八郎
〔正解 4〕

イ (1) 飯塚停車場の設置 (2) 群馬県庁の奪還
(3) 上水道の完成 (4) 白衣大観音の建立
〔正解 3〕

ウ (1) 絹貿易 (2) 鉄道開通と高崎停車場開設
(3) 高崎商工会議所設立 (4) 銀行開設
〔正解 2〕

●解説

初代高崎市長となった矢島八郎は1850（嘉永3）年11月にあら町（当時・新町）の伝馬問屋年寄役の家に生まれました。13歳で家督を継ぎ、実業界でも活躍、高崎に東京・上野から鉄道が延びると、矢島八郎は私財をなげうって広大な停車場用地を寄付し鉄道開業に尽力し、1884（明治17）年5月に上野高崎間の鉄道が開業しました。その功績により停車場の周辺の新しい町名を「矢島町」とする案が出ましたが、矢島が固辞したため、「八島町」となりました。

矢島は1889（明治22）年に初代高崎町長に選出されるなど厚い信用を集めました。

明治政府は、衆議院選挙で高崎市選挙区として独立させることを主眼に高崎町に市制移行の気運醸成をはかり、1900（明治33）年4月1日に高崎市制が施行、人口3万2467人の高崎市が誕生しました。前橋市に次いで県下2番目、全国で53番目でした。

6月に市会議員選挙が行われ、30人の市会議員が選出されました。当時の市長は3人の市長候補を市会が推薦し、その中から内務大臣が上奏し天皇の裁可で選任される制度で、高崎市会が第一候補とした矢島八郎が初代高崎市長に選任されました。

矢島市長は、就任から二期満6年の任期満了を前に1906（明治39）年6月、市役所に付設して新設された市会議場で高崎市の基本方針となる高崎市是について大演説を行いました。上水道については軍の駐屯地として早急な問題として具体的な提案を盛り込みました。

市長退任後、矢島は国政でも活躍し、1921年（大正10）に死去。「葬会約3,000名、高崎始まって以来の盛式」と砂賀町日記に記されています。業績をたたえ、1930年（昭和5）、観音山丘陵に銅像が建立されました。

問 3 2

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか

図書館は1910（明治43）年、本町に開館した私立高崎図書館に始まりま
す。建物は1884（明治17）年の【ア】に際し、明治天皇の行在所とし
て用意された【イ】が使われました。

その後、市立図書館となり、成田町に新図書館が建設され、充実が図ら
れましたが、太平洋戦争の戦局悪化により移転を余儀なくされました。戦
後も移転がありましたが、中核市となった2011（平成23）年に、【ウ】
との複合施設として、現在地に開館しました。市町村合併により、図書館
施設は中央館と5つの地域館になりました。

- ア （１）君が代橋渡し初め式 （２）高崎小学校開校式
（３）高崎線の開通式 （４）剣崎浄水場竣工式

〔正解 ３〕

- イ （１）^{しゅんあいかん}春 靄館 （２）^{ぶとくでん}武徳殿 （３）中央公民館 （４）婦人会館

〔正解 １〕

- ウ （１）シティギャラリー （２）総合保健センター
（３）高崎税務署 （４）ハローワーク

〔正解 ２〕

●解説

図書館は1910（明治43）年、本町に開館した私立高崎図書館に始まり
ます。建物は1884（明治17）年の高崎線の開通式に際し、明治天皇の行
在所として用意された^{しゅんあいかん}春 靄館が使われました。その後、私立から市立図
書館へと所管が変わりますが、高崎の図書館活動の推進に大きな役割を
果たしました。建物はおよそ50年間利用された後、解体されました。

2代目図書館は1935（昭和10）年にほぼ同じ場所に新築されました。
初代図書館の年間利用者が4万5千人であったのに対し、1938（昭和13）
年には18万人超と大幅に増加しました。

その後、太平洋戦争の戦局悪化により移転を余儀なくされなどしまし
たが、1948（昭和23）年によりや元の場所に戻ることができました。
3代目図書館は1965（昭和40）年に市役所の隣に新築開設され、1984
（昭和59）年には4代目図書館として、群馬県立高崎女子高校の跡地に、

校舎を改築する形で移転しました。



高崎図書館（旧春靄館）

中核市となった2011（平成23）年に、総合保健センターとの複合施設として、5代目図書館が現在地の高松町に開館しました。市町村合併により、図書館施設はこの中央館と箕郷図書館、群馬図書館、新町図書館、榛名図書館、山種記念吉井図書館の5つの地域館になりました。

問33

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

江戸時代、中山道を横切る神流川は、洪水のたびに流路が変わり、多くの人が道に迷ったことから石灯籠（常夜灯）を建て、目印としていました。

この神流川に架かる【ア】ですが、現在の橋梁は、1934（昭和9）年に架橋されたもので、90年近くが経過し、老朽化が著しいことや幅員が狭く渋滞の原因となっていることから、架け替え工事が進められており、新橋は2022（令和4）年中に開通の見通しです。

俳人【イ】も寄進させられたという石灯籠は、この【ア】から500メートルほど新町寄りに建っていますが、もともとの石灯籠は1891（明治24）年に【ウ】にある諏訪神社の参道に移設され、現在ここに建っているのは1978（昭和53）年に複製されたものです。

ア （1）神流川橋 （2）君が代橋 （3）昭和大橋 （4）柳瀬橋

〔正解 1〕

イ （1）かわひがしへき ごとう河東碧梧桐 （2）こばやし いっさ小林一茶
（3）まつおばしやう松尾芭蕉 （4）むらかみ きじやう村上鬼城

〔正解 2〕

ウ (1) 大八木町 (2) 片岡町 (3) 上豊岡町 (4) 浜川町

〔正解 1〕

●解説

国道17号の群馬・埼玉県境にかかる現在の神流川橋は、1934（昭和9）年に架橋されて以来90年近くが経過し、老朽化が著しいため、2022（令和4）年内の開通を目指し、架け替え工事が進められています。

新たな橋は、埼玉県深谷市岡から高崎市新町までの区間で整備が進められている延長13.1kmのバイパス・本庄道路の一部として、交通混雑の解消、交通事故の減少に役立つことのほか、災害時の緊急輸送路が確保されることで、防災・震災対策につながることを期待されています。

問34

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1884（明治17）年5月、上野高崎間が鉄道で結ばれたのに続き、同年8月には前橋まで延伸され、前橋市石倉町に前橋停車場が開設されました。その後、1889（明治22）年、【ア】が開通し、栃木・群馬両県が鉄道で繋がりました。

1921（大正10）年に高崎前橋間に新前橋駅が設置され、1937（昭和12）年には浜尻駅と【イ】駅の2駅が増設されました。また、1934（昭和9）年、高崎前橋間に汽車に加えて【ウ】カーという車両が導入されました。

しかし、増設された2つの駅はまもなく廃止され、新たに導入された車両も短命で終わってしまいました。

ア (1) 上野鉄道 (2) 両毛鉄道
(3) 北毛鉄道 (4) 足利鉄道

〔正解 2〕

イ (1) 飯塚 (2) 貝沢 (3) 中尾 (4) 日高

〔正解 4〕

ウ (1) ガソリン (2) ディーゼル (3) 石炭 (4) 木炭

〔正解 1〕

●解説

1884 (明治17) 年5月に上野高崎間が鉄道で結ばれました。同年8月に前橋まで延伸され、前橋市石倉町に前橋停車場が開設されました。1872 (明治5) 年、新橋横浜間に我が国初の鉄道が開通してからわずか12年後のことでした。倉賀野河岸から船を用いて3日を要していた物流は鉄道による陸運へと変貌し、大規模輸送と大幅な時間の短縮を可能にしました。

1889 (明治22) 年には両毛線が開通し、栃木・群馬両県が鉄道で繋がれました。1921 (大正10) 年に高崎前橋間に新前橋駅が設置され、1937 (昭和12) 年には浜尻駅と日高駅の2駅が増設されました。1934 (昭和9) 年に導入されたガソリンカーという車両のみが停車する無人駅でしたが、両駅とも3年後には廃止されてしまいました。また、車体が軽く、乗り心地が良かったガソリンカーも戦局が厳しさを増す中でガソリンを燃料とする新車両は撤退を余儀なくされました。

高崎問屋町駅が出来るまで、高崎駅と新前橋駅の間の唯一の駅であった井野駅が旅客の取り扱いを開始するのは戦後の1948 (昭和23) 年にホームを設置してからのことになります。



ガソリンカーの試運転を伝える新聞



前橋ステーション跡

問 3 5

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

2021（令和3）年10月1日、24年間高崎市民に親しまれてきた2階建て新幹線、上越新幹線E4系「MAX【ア】」・「MAXたにがわ」の運行が終了しました。

上越新幹線は1982（昭和57）年11月15日に開業しましたが、高崎市から北は地形、地質の変化が激しかったことや豪雪地帯を通過すること、騒音問題を起こさないことなどから予想以上の難工事でした。

その結果、先頭車両のスカートには「雪除け」が取り付けられ、開業時高崎市内の【イ】を渡る橋りょうは、上越新幹線中で最も長い1374メートル、【ウ】トンネルは鉄道山岳トンネルで世界5位（15.4キロメートル）の長さとなりました。

ア （1）とき （2）あさひ （3）あさま （4）やまびこ

[正解 1]

イ （1）井野川 （2）鎚川 （3）烏川 （4）利根川

[正解 3]

ウ （1）子持山 （2）月夜野 （3）中山 （4）榛名

[正解 4]

●解説

2021（令和3）年10月1日に、24年間高崎市民に親しまれてきた上越新幹線2階建て車両の運行が長野新幹線開通などにより終了しました。

上越新幹線は1982（昭和57）年11月15日に開業しましたが、高崎市から北は地形、地質の変化が激しかったことや豪雪地帯を通過すること、騒音問題を起こさないことなどから予想以上の難工事でした。

その結果、先頭車両のスカートには「雪除け」を取り付け、沿線には積雪感知装置・降雪検知装置などが設けられました。また、平地から山岳地に入るため烏川には上越新幹線中で最も長い1374メートルの烏川橋りょうが、鉄道山岳トンネルでは世界5位の榛名トンネルが設けられました。

世界の鉄道山岳トンネル（建造時）

1位	大清水	（1980年）	日本	22.2キロメートル
2位	シンプロン	（1906年）	イタリア～スイス	19.8キロメートル
3位	アペニン	（1931年）	イタリア	18.6キロメートル
4位	六甲	（1971年）	日本	16.2キロメートル
5位	榛名	（1980年）	日本	15.4キロメートル

問 3 6 次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1974（昭和49）年6月、経済学者であり、高崎倉庫や高崎通運などの社長を歴任した山田勝次郎が私財を投じて、財団法人【ア】を常盤町に設立しました。

目的は、県内の小中高校に図書を寄付することでした。

財団の設立にあたり、私邸を寄贈して基本財産としました。茂木銀行から移築したとされる【イ】、山田昌吉が主宰した【ウ】の会合が行われた茶室など、歴史景観を形成しています。

ア （1）赤坂文庫 （2）高崎文庫 （3）山田文庫 （4）和田文庫
〔正解 3〕

イ （1）生垣 （2）ガス灯 （3）時計塔 （4）れんが堀
〔正解 4〕

ウ （1）新生会 （2）高崎経済研究会
（3）同気茶話会 （4）常盤会
〔正解 3〕

●解説

公益財団法人山田文庫は、1974（昭和49）年に山田勝次郎・とく夫妻により創設され、「子どもたちに本を」を理念に、図書の購入費用が不足している県内小中学校に図書の購入費用の助成を行い、現在、高崎市内の小中学校を対象校に助成を行っています。山田夫妻の所蔵していた貴

重な書籍を始め、幅広い分野の書籍や児童書などの閲覧や一般貸し出しも行っています。

創立者の山田勝次郎は1897（明治30）年に生まれ、政治学者・蠟山政道の実弟です。高崎商工会議所会頭も務めた産業界の重鎮、山田昌吉の長女・とくと結婚し、高崎倉庫を継承しました。

山田文庫は、山田家の歴代当主が住み、高崎の歴史を伝える貴重な建築物で耐震工事を終え、2021（令和3）年11月18日にリニューアルオープンしました。敷地西側の茶室は山田昌吉が主宰した同気茶話会の会合に使われました。

山田文庫の煉瓦塀は、旧中山道・赤坂のランドマークになっており、大正時代に九蔵町にあった旧茂木銀行の煉瓦塀を解体した時、茂木銀行高崎支店の支店長を務めていた山田昌吉が、自邸の敷地内へ移築したと伝えられています。どのように移築したかは不明です。

1998（平成10）年に「第3回 たかさき都市景観賞」、2000（平成12）年に「都市景観重要建築物等」に指定され、2010（平成22）年2月1日に「景観重要建造物」に移行しました。

問 3 7 次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎市と前橋市は、同じ人口規模の複眼都市で、ライバル都市として発展してきました。

1998（平成10）年に高崎市長、前橋市長による連携会議が設置され、【ア】が目指されました。連携事業では、職員交流、図書館の相互利用、【イ】等が実施されています。

- ア
- （1）両市合併による県央政令指定都市の実現
 - （2）両市による広域消防組合の設置
 - （3）双翼興県のツイン都市
 - （4）ユネスコ世界遺産の登録

〔正解 3〕

- イ (1) 高校生バンドフェスティバル (2) 市民美術展
(3) 東国千年の都展 (4) だんべえ踊り

〔正解 3〕

●解説

前橋市と高崎市が連携し、市民サービスの向上と効率的な行政運営を図るため、1998（平成10）年1月に前橋・高崎連携市長会議が設置されました。群馬県を代表する前橋市・高崎市が連携・協力することで、群馬県全体の発展を積極的に牽引していこうと「双翼興県のツイン都市」がキャッチフレーズに定められました。鶴舞う形の群馬県の二つの翼が羽ばたくことで群馬が発展する姿を示しました。

連携事業では、高崎まつり、前橋まつりでの交流、職員交流など幅広く、両市を結ぶ幹線道路の整備では、新前橋駅川曲線と南八幡京ヶ島線が接続する工区を連携して整備し、前橋市と高崎市の市境が入り組んだ区間を効率的に施工しました。

「東国千年の都」展は、前橋市と高崎市の発掘調査結果を展覧し、両市の市民に発掘成果を知ってもらい、前橋・高崎地域の歴史への理解を深める事業として継続しています。

イベントでは、ダンスフェスティバルのように初期の目的を達成したとし、高崎市の単独事業となっているものもあります。

問38

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

2022（令和4）年3月に完成した箕輪城の本丸・蔵屋敷間木橋の整備にあたっては、【ア】の本丸にかかる木橋の絵図が参考にされました。

【ア】の本丸はこの木橋の他に2か所土橋があり、敵に備えるために土塁の上には乾櫓や【イ】などの計5棟の櫓が配置されていました。

ア (1) 高崎城 (2) 鷹留城 (3) 山名城 (4) 和田城

〔正解 1〕

イ (1) 御三階櫓 (2) 御五階櫓 (3) 御六階櫓 (4) 御七階櫓

〔正解 1〕

●解説

箕輪城の本丸・蔵屋敷間木橋の整備にあたっては、発掘調査で確認された礎石の配置や箕輪城の移城先である高崎城の本丸にかかる木橋の絵図が参考にされました。高崎城の本丸には木橋や土橋があり、さらに土塁の上には乾櫓、艮櫓、巽櫓、坤櫓、御三階櫓の計5棟の櫓が配置されていたほか、本丸内には能舞台などを伴う御殿が建てられていました。本丸内は水はけが悪いことから、18世紀までには二ノ丸に御殿を移すことになりました。

問39

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか

観音山丘陵には400メートルの人工^{ずいどう}隧道に39体の観音像を祀る【ア】があります。【ア】は高崎田町で呉服商を営んでいた【イ】が大正の中頃から昭和の30年代にかけて、私財を投じて造ったものです。隣には徳明園と名付けられた回遊式庭園と【イ】が晩年を過ごした邸宅が資料館として公開されています。

ア (1) 洞窟観音 (2) 青の洞門
(3) 群馬県護国神社 (4) 清水寺

〔正解 1〕

イ (1) 山田昌吉 (2) 山田徳蔵
(3) 井上保三郎 (4) 中島伊平

〔正解 2〕

●解説



山田徳蔵

洞窟観音は高崎市田町で呉服店を営んでいた山田徳蔵（1885～1964）が観音山丘陵に掘った400メートルの^{すいどう}隧道に39体の観音像を祀ったものです。徳蔵が30代半ばの1919（大正8）年から始まった工事は徳蔵が亡くなる1964（昭和39）年まで続けられました。

洞窟観音の隣には隧道掘削に際し、不用となった排土を使って造成された回遊式庭園の徳明園があります。池泉と枯山水、苔庭と石庭で構成された庭園は四季折々を彩る多くの樹木や草花で囲まれています。また、徳蔵が晩年を過ごした邸宅は山徳記念館として開放されています。

洞窟観音に祀られた観音像群は石工高橋楽山が数年の歳月を掛けて完成させたもので、花崗岩の石肌を活かした柔らかな曲線で彫刻された姿から優れた技術を窺い知ることができます。庭園には亀に乗った浦島太郎、酒を喰らう閻魔大王や腹を抱えて笑う鬼などが置かれ、観音像とは別のユニークな石造物の世界が広がります。



閻魔大王と鬼

問 40

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎学検定のマスコットともなっている（この問題用紙の表紙にも描かれています）キャラクターの名前は“【ア】”といい、2008（平成20）年に群馬県で開催された【イ】高崎会場のマスコットキャラクターとして誕生しました。

高崎会場は、中心市街地を会場としてまちなかを【ウ】で飾る、全国でも初となる都市型の会場として注目を集めました。

- ア （１）タカウサギ （２）たかのはな
 （３）タカポン （４）たか丸

〔正解 ３〕

- イ （１）群馬交通安全フェスティバル
 （２）群馬デスティネーションキャンペーン
 （３）全国植樹祭ぐんま
 （４）全国都市緑化ぐんまフェア

〔正解 ４〕

- ウ （１）音楽 （２）クラシックカー （３）花と緑 （４）埴輪

〔正解 ３〕

●解説

2008（平成20）年、群馬県内各地に会場を設け、第25回全国都市緑化ぐんまフェアが開催されました。このとき、高崎会場のマスコットキャラクターとして誕生したのがタカポンです。

高崎会場では、高崎駅から高崎城址公園周辺までの中心市街地を「高崎花路花通り」と名づけ、各通りにテーマを設けて花や緑による飾りつけを行うなど、中心市街地を会場としてまちなかを花や緑で飾る、全国でも初となる都市型の緑化フェアとして注目を集めました。

緑化フェア終了後の会場は、原則として元の状態に戻されていますが、町内会や商店街で管理できる飾花などは継続されています。

高崎学検定委員会